

フェスタサマーミュージーザ

KAWASAKI 2020

ミュージーザ川崎シンフォニーホール

サマーミュージーザは全公演ライブ配信を実施しております。客席内と舞台上に映像収録カメラが入りますので、予めご了承ください。

新日本フィルハーモニー交響楽団

New Japan Philharmonic

ベートーヴェン生誕250年 久石 譲、ベートーヴェンを振る!

8/4^火● 室内楽コンサート
14:20~14:40● 開演
15:00● 終演予定
17:00

曲目

久石 譲: Encounter for String Orchestra (5分)

Joe Hisaishi: Encounter for String Orchestra

ベートーヴェン: ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品61* (カデンツァ: ベートーヴェン/久石 譲) (45分)

Beethoven: Violin Concerto in D major, Op. 61

第1楽章 アレグロ・マ・ノン・トロppo
第2楽章 ラルゲット
第3楽章 ロンド(アレグロ)

—休憩(20分)—

ベートーヴェン: 交響曲第7番 イ長調 作品92 (40分)

Beethoven: Symphony No. 7 in A major, Op. 92

第1楽章 ボーコ・ソステヌート ヴィヴァーチェ 第3楽章 プレストー アッサイ・メーノ・プレスト
第2楽章 アレグレット 第4楽章 アレグロ・コン・プリオ

※演奏時間は目安です。

出演

指揮: 久石 譲

ヴァイオリン: 豊嶋泰嗣(ソロ・コンサートマスター)*

コンサートマスター: 崔 文洙(ソロ・コンサートマスター)

※出演者・公演内容につきましては変更が生じる場合がございます。

室内楽コンサート 弦楽四重奏

【出演】

ヴァイオリン: 崔 文洙
ビルマン聡平

ヴィオラ: 篠崎友美

チェロ: 植木昭雄

【曲目】

ショスタコーヴィチ:

弦楽四重奏曲第8番

室内楽コンサートについて

室内楽コンサート中の入退場はご遠慮ください。本公演と同じお席でお楽しみください。

△ 新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、ご協力をお願いいたします。

【お客様へのお願い】

※マスク着用、手指消毒にご協力ください。

※終演後は、スタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いている扉から混雑を避けてお帰り下さい。

※出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。

※万一、クラスター(感染集団)の発生が明らかになった際、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

【館内設備について】

※クローク、ドリンクコーナー、ショップの営業はございません。

※冷水器の使用は停止しております。

※換気のため、通常よりも空調を強めにしております。また、隣席を空けているため、普段よりも寒く感じる場合がございます。

※万一、クラスター(感染集団)の発生が明らかになった際、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。

※アンコール曲は公演後、当ホールホームページに掲載いたします。

ご登録をお願いします

神奈川県 LINE コロナお知らせシステム

会場内に掲示しているQRコードを読み取ってください。新型コロナウイルスに感染された方が発生した際、保健所の調査に必要と判断された場合にLINEメッセージが届きます。

※来場日ごとに、QRコードの読み取りをお願いします。

ホール内は小さな音でもよく響きますので、ご協力をお願いいたします



演奏中の入退場はご遠慮ください。



全席指定の公演です。ご自分のお席でお聴きください。



ホール内客席では携帯電話、スマートフォンなど全ての電子機器の電源をお切りください。タブレット端末など光を発する機器も、周囲の方の鑑賞の妨げとなりますので、ご使用にならないようお願いいたします。



時計のアラーム・時報などは設定の解除をお願いいたします。



許可のない写真撮影、録音、録画は固くお断りいたします。



鈴のついたアクセサリー、お手荷物などは演奏中に音が出ないように、十分ご注意ください。また、アメの包み紙を開ける音にもご注意ください。



ホール内での飲食はご遠慮ください。



※曲が終わったとき、音が消えゆく余韻を十分に味わってから、拍手をお送りください。

【補聴器をお使いの皆さまへ】

補聴器が正しく装着されていることをご確認くださいませよう、お願いいたします。

主催: 川崎市、ミュージーザ川崎シンフォニーホール (川崎市文化財団グループ)

後援: 川崎市教育委員会、公益社団法人 日本オーケストラ連盟、J-WAVE 81.3FM、OTTAVA

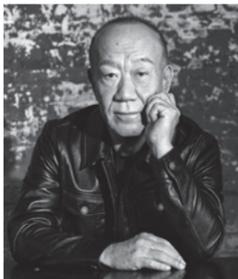
助成: 文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業) | 独立行政法人日本芸術文化振興会

映像・音響制作: YouClassics

協力: 株式会社東京MDE、エヌ・ティ・ティ・スマートコネクト株式会社



■ 出演者プロフィール



指揮: 久石 譲 Joe Hisaishi, Conductor

国立音楽大学在学中よりミニマル・ミュージックに興味を持ち、現代音楽の作曲家として出発。「風の谷のナウシカ」(1984年)以降の宮崎駿監督全作品のほか数多くの映画音楽を手がけ、日本アカデミー賞最優秀音楽賞、紫綬褒章受章など国内外で受賞多数。2004年「新日本フィル・ワールド・ドリーム・オーケストラ(W.D.O.)」の音楽監督に就任。指揮者としても世界で活動しながら、「THE EAST LAND SYMPHONY」やホルン協奏曲「The Border」などの作品を発表。2014年、自らのプロデュースにて世界の最先端の音楽を紹介するコンサート・シリーズ「MUSIC FUTURE」を始動。2019年には「Future Orchestra Classics」を開始し、現在はブラームス・チクルスに取り組む。『ベートーヴェン: 交響曲全集』でレコード・アカデミー賞特別部門特別賞受賞。Decca Goldから『Dream Songs: The Essential Joe Hisaishi』が全世界リリースされている。2020年9月から新日本フィルハーモニー交響楽団 Composer in Residence and Music Partnerに就任。



ヴァイオリン: 豊嶋泰嗣 Yasushi Toyoshima, Violin

桐朋学園在学中よりヴァイオリン、ヴィオラ奏者としてソリスト、室内楽、コンサートマスターとして演奏活動始める。1986年、大学卒業と同時に新日本フィルのコンサートマスターに就任。1997年からは九州交響楽団と新日本フィルのコンサートマスターを異例の兼任。現在は新日本フィルのソロ・コンサートマスター、兵庫県立芸術文化センター管のコンサートマスター、京都市交響楽団の特別名誉友情コンサートマスター、九州交響楽団の桂冠コンサートマスターを務めている。協奏曲のソリストとしても活躍するほか、アルティ弦楽四重奏団のメンバーとしての活動、またサイトウ・キネン・オーケストラや水戸室内管でもコンサートマスターを務めている。2019年にはバッハのヴァイオリン全作品を3回に分けて演奏するコンサートを京都で開催し、その成果により第29回青山音楽賞青山賞を受賞した。1991年村松賞、第1回出光音楽賞、1992年芸術選奨文部大臣新人賞受賞。平成25年度兵庫県文化賞受賞。京都市立芸術大学教授、桐朋学園大学および大学院講師。

■ オーケストラ・プロフィール

新日本フィルハーモニー交響楽団 New Japan Philharmonic

【創設】 1972年、小澤征爾を中心に自主運営のオーケストラとして創立。

【指揮者】 上岡敏之(音楽監督)、小澤征爾(桂冠名誉指揮者)、ゲルハルト・ボッセ(ミュージック・アドヴァイザー)、齋藤秀雄(永久指揮者)、ムスティスラフ・ロストロポーヴィチ(フレンド・オブ・セイジ)、久石 譲(新日本フィル・ワールド・ドリーム・オーケストラ音楽監督)

【楽団員数】 87名

【ホーム・コンサート・ホール】 すみだトリフォニーホール

【楽団ウェブサイト】 <https://www.njp.or.jp/>

<p>● 感動をもう一度! アーカイブ配信で 本日の演奏をお楽しみいただけます。 1公演 1,000円 配信期間: 公演翌日12:00~8/31(月)23:59 https://tiget.net/tours/summermuza2020/</p>	<p>● アンコール曲 ● ほほ日刊サマーミュージーザ ONLINE! ● アンケート ● パートナーショップ特典 はこちらの特設サイトより https://www.kawasaki-sym-hall.jp/festa/</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

ミュージーザ川崎シンフォニーホール ホールスポンサー		ミュージーザ川崎シンフォニーホールの公演事業は、ホールスポンサーの皆様によって支えられています。		
【法人】 特別賛助会員 NTTアドバンステクノロジー株式会社 川崎幸病院 川崎信用金庫 川崎フロンターレ キヤノン株式会社 サントリーホールディングス株式会社 大本山川崎大師平間寺 三井不動産グループ 株式会社ヨドバシカメラ 【賛助会員】 税理士法人あおぞら会計 味の素株式会社 川崎事業所 アルファクス株式会社 株式会社イープラス ENEOS株式会社	有限会社エムシーエス・デザインズ 神奈川県海鉄道株式会社 川崎アゼリア株式会社 公益社団法人川崎市医師会 川崎信用保証協会 公益社団法人川崎市病院協会 一般社団法人川崎市薬剤師会 川崎鶴見臨港バス株式会社 川崎日航ホテル かわさきファズ株式会社 川崎臨港倉庫埠頭株式会社 株式会社きんでん 株式会社ケイエスピー ケイジーケイ株式会社 京浜楽器株式会社 株式会社さいか屋 川崎店 公益財団法人JFE21世紀財団 株式会社シグマコミュニケーションズ	セレサ川崎農業協同組合 高橋昌也税理士・FP事務所 株式会社デイ・シー 東亜石油株式会社 株式会社 東芝 東洋ロザイ株式会社 日本窯炉株式会社 びあ株式会社 富士電機株式会社 ホテルメトロポリタン 川崎 株式会社ムーブエイト ヤマハサウンドシステム株式会社 * 大宮町町内会 共奏・ドリームフィルハーモニーオーケストラ 遊園電子工房	【個人】 阿部 孝夫 磯野 和久 市橋信一郎 井上 敏昭 遠藤 智和 大木志乃生 大越麻美子 大塚 具幸 小笠原 将 岡野 功 小野 洋彰 金山 直樹 喜多 紘一 久住 映子 小宮みつほ 後藤 実 小林 知子 齊藤 隆徳 佐藤 亨 佐藤 晴哉 鈴木 徹 関口 浩・三代子 高橋 美子 竹内 啓介 都築 豊 中村紀美子 西山 英昭 橋本あみ子 長谷川喜代江 林 直人 平野 信子 廣瀬 治昇 前田 泉 松本 武巳 山内 利夫	山下 啓史 山田 昌克 N. A 他器名6名 他1法人 敬称略五十音順

自らの運命にも、権威にも負けない、拳を降り拳げるロッカー、ベートーヴェン！

●久石 譲のミニマル・ミュージック、そしてベートーヴェンとの邂逅

宮崎駿監督や北野武監督の映画に欠かせない作曲家として知られる久石譲。世界で人気の作曲家だが、幼少時代から映画に親しみ、2001年には映画『カルテット』を自ら監督している。国立音楽大学作曲科時代には、ミニマル・ミュージックに出会い、研究。1981年に、ミニマル・ミュージックのアルバム『MKWAJU』を発表して以来、現代音楽の作曲家としても知られる。さらに、久石は2004年、新日本フィルハーモニー交響楽団と「新日本フィル・ワールド・ドリーム・オーケストラ」を結成し、音楽監督として活動。一方で、日本の若手トッププレーヤーたちが結集したナガノ・チェンバー・オーケストラとともにベートーヴェンチクルスを開始する。そのミニマル・ミュージック的解釈に則ったベートーヴェンの演奏は高く評価され、アルバム『ベートーヴェン交響曲全集』は、2019年レコード・アカデミー賞の特別部門特別賞に輝いた。

そんな彼の作品「Encounter for String Orchestra」は、だまし絵で知られる版画家M.C. エッシャーの同名の作品に触発された楽曲。リズムは変拍子のアフタービートで刻まれ、ミニマル・ミュージックを原点に持つ久石ならではのもの。ピアノと弦楽四重奏のための作品を弦楽オーケストラのために自ら編曲。ミニマル・ミュージックと、弦楽オーケストラならではの抒情的感性とが絡み合い、それぞれの特性が浮かび上がる。

●「傑作の森」で書き上げたヴァイオリン協奏曲

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン（1770～1827）がヴァイオリン協奏曲二長調を書き上げたのは1805年と考えられている。このあたりの時期だけでも、書き上げた傑作は他に交響曲第4番やピアノ協奏曲第4番、『熱情ソナタ』などなど。『ベートーヴェンの生涯』を書いたフランスの作家ロマン・ロランは、1806年を含めた1804年からの10年間を、「ベートーヴェンの傑作の森」と表したほどだ。

傑作の森の入口1804年は、音楽家にとっては致命的と言える難聴や失恋に苦しみ、「ハイリゲンシュタットの遺書」を書いたわずか2年後のこと。この遺書をしたためた結果、生きることに執着し作曲を熱望する自らの内声を聴いたのだろう。拳を高く挙げ、彼は猛然と「傑作の森」に分け入っていくのである。

交響曲第5番「運命」をも着手しながら、使命感を抱いて作曲に没頭する日々、すなわち「傑作の森」の中で作曲されたヴァイオリン協奏曲。メンデルスゾーンやブラームスの作品と並んで「三大ヴァイオリン協奏曲」と呼ばれる傑作となった。

親友であり、アン・デア・ウィーン劇場オーケストラのコンサートマスター兼指揮者フランツ・クレメントの演奏会のために作曲。ベートーヴェンはボン時代にヴァイオリ奏者として宮廷に仕えた時期もあり、ウィーンに進出してからはヴァイオリン奏法を学んだので、この楽器にも詳しくはあったが、コンサート当日まで楽譜が出来上がらず、クレメントは初見で演奏したという。なお、この作品は、別の親友シュテファン・フォン・ブロイニングに献呈され、さらに後にベートーヴェンはこの作品をピアノ協奏曲二長調 作品61aに編曲しているが、こちらはブロイニングの妻でピアニストのユ

ーリエに結婚祝いとして献呈している。今回、演奏されるヴァイオリン協奏曲のカデンツァは、そのピアノ協奏曲に編曲する際にベートーヴェン自身が作ったカデンツァをもとに久石譲が再構築したものだ。編曲者によって途中がカットされている版がほとんどだが、久石はそれをせずにはベートーヴェンのオリジナルと同じ長さ仕上げた。まさに世界で唯一の完全版で、今回の演奏会が初のお披露目になる。

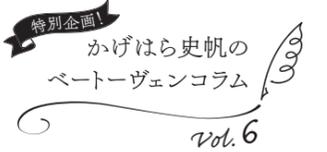
●自由を愛し、権威に立ち向かうベートーヴェン

交響曲第7番を完成させた1812年の頃には、作曲家ベートーヴェンはヨーロッパ中にその名を成していた。この1812年は、シラーの詩『歓喜に寄す』に曲を与えた交響曲第9番の構想をもできていたという。ベートーヴェンは青年時代から二人の詩人、シラーとゲーテを敬愛していたのだ。

さらに1812年には、ゲーテとの会見をも果たしている。ベートーヴェン41歳、ゲーテ63歳のことだ。この時、ゲーテは数々の功績や政治的働きにより大侯爵の地位を得ていた。そんなゲーテと会い二人で散歩していると、向こうからオーストリア皇帝一家が散歩してくるのが見え、人波がさっと左右に割れた。早速ゲーテも脇に寄り帽子を取り深々とお辞儀をしたが、それを（自由を愛すべき詩人のくせに）と言わんばかりに一瞥したベートーヴェンは、まっすぐに堂々とリズムよく道の真ん中を歩いて行った。近づいてきたフランツの方からベートーヴェンに挨拶したという。

強靱な精神と気構えでもって、権力に対しても果敢に立ち向かっていくベートーヴェン。そんな彼が書き上げた交響曲第7番。荒波にもリズムを掴んで乗り、突き進む作曲家そのままに、心躍り、疾走する作品だ。構成的には従来の古典的なものを用いながら、その革新的な生命力溢れるリズムはロックそのもの。リストはこの曲を、「リズムの神化」、ワーグナーは「舞踏の神化」と絶賛し、特に第2楽章を「不滅のアレグレット」と評した。

■パトロンとの大ゲンカの真相は？



『ヴァイオリン協奏曲』が作曲された1806年。
35歳のベートーヴェンは、パトロンと大ゲンカをしてしまいました。

そのパトロンは、カール・フォン・リヒノフスキー侯爵。長年にわたってベートーヴェンを手厚く支援してきた貴族でした。ケンカは、彼が侯爵の誘いに応じて領地シレジアの城に赴いたときに起きました。気乗りがしないと言っているにもかかわらず、ピアノの演奏をしつこく求められたベートーヴェン。侯爵とその客人の前でブチ切れた彼は、夜中にもかかわらず城を飛び出し、プリプリしながら近郊の町まで歩いて馬車をつかまえ、そのままウィーンまで帰ってしまいました。

ベートーヴェンがこれほど怒ったのはなぜでしょうか。もしかしたら、客人を前に見世物のようにピアノを弾かされることへの抵抗があったからかもしれません。きらきらした技巧で聴衆を沸かせるような演奏を彼は嫌っていました。数カ月後、彼は『ヴァイオリン協奏曲』を作曲しますが、その自筆譜には「お情け（クレメンツァ）のためにクレメントへ」という皮肉っぽい献辞が書き込まれていました。クレメントは、派手なテクニックで人気を集めていたヴァイオリニストで、この協奏曲を初演したソリスト。「媚びる演奏をするやつはクライだ!!」——そんな想いが、この献辞からはひしひしと感じられます。

(かげはら史帆/ライター)